

# 小笠原先生の奈良・古代史講座のご案内

主催 奈良歴史遺産市民ネットワーク

事務局 〒630-8306 奈良市紀寺町883-4

Tel.・fax 0742-23-3934 小宮みち江

**講師** 小笠原好彦氏 滋賀大学名誉教授・文化財保存全国協議会常任委員

**講座会場** 奈良県教育会館 開講13時30分(開場13時) (奈良県文化会館西隣 近鉄奈良駅より徒歩5分)

**参加資料代** 500円

**5月12日(火)** 《平城京に設けた東・西市と堀河の役割》



平城宮・京は、律令国家の政務を担った宮都でした。平城京には八省の官衙を設けた平城宮があり、官人らをふくむ10数万人が暮らしていました。この平城京での生活を支えたのは東・西市での交易でした。この東・西市への諸物資の運搬は、西市には秋篠川、東一は堀河が利用されています。東・西市には、役所として市司がおかれ、諸物資の流通を管理していました。

**6月9日(火)** 《黒塚古墳の被葬者を考える》

黒塚古墳は、1997年に発掘された全長130mの前方後円墳です。埋葬主体部は竪穴式石室で、33面の三角縁神獣鏡が副葬されていました。この大和古墳群には40基の前方後円墳が築造されており、その被葬者を見出すのは不可能に近いことです。しかし、あえて、その被葬者の候補者を、試みに考えてみることにします。

**7月14日(火)** 《平城宮・京での大造営と泉津の市》

平城京には、中央官衙(役所)の平城宮と、興福寺・元興寺・大安寺・薬師寺・東大寺などの大寺院が建てられました。このような役所や大寺院の造営では、東西市から購入する以外の方法でも、必要とする諸物資を調達していました。その一つは、山背の相楽郡を流れる泉川(木津川)河畔にあった泉津に設けられた市や木屋所から大量の建設資材などを調達していました。その実態を『正倉院文書』によって考えてみます。

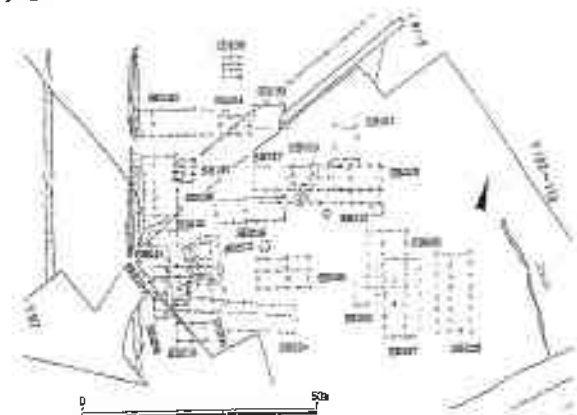


図35 泉津遺跡と木屋所の遺構  
(滋賀県教育委員会 泉津遺跡Ⅱ(2010年))

☆☆☆ 事前の申し込みは要りません。

どなたでも参加できます ☆☆☆